

【H28年度日本医療研究開発機構(AMED)研究費】(戦略推進部 感染症研究課)	
【公募締め切り・事業紹介リンク先】	○提出方法:e-Rad及び郵送
(1)新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	平成27年12月15日(火)正午(厳守) http://www.amed.go.jp/koubo/010620151113-01.html
(2)肝炎等克服実用化研究事業	平成27年12月15日(火)正午(厳守) http://www.amed.go.jp/koubo/010620151113-02.html
(3)エイズ対策実用化研究事業	平成27年12月15日(火)正午(厳守) http://www.amed.go.jp/koubo/010620151113-03.html

【公募課題概要】

	研究費(年間) (間接経費を含む)	研究期間	採択件数	目標、求められる成果等
(1) 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業				
(1) 一類感染症等の新興・再興感染症の診断・治療・予防法の研究	20,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、マールブルグ病等の一類感染症をはじめとした重大な感染症は、ひとたび流行が発生すると社会・経済への影響が大きく、公衆衛生上非常に重要な感染症の一つである。これらの一類感染症等について感染症対策に資する診断・治療・予防に関する研究を行う。また、国内の一類感染症等の発生に備えるために、地方衛生研究所との連携に必要な診断技術支援等に資する研究を推進する。</p> <p>【求められる成果】 一類感染症等の診断・治療・予防法の開発と地方衛生研究所との連携に必要な検査法等の開発、地方衛生研究所との国内ネットワーク構築。</p>
(2) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に対する診断・治療・予防法の開発及びヒトへの感染リスクの解明等に関する研究	40,000千円程度	最長3年	1~2課題程度	<p>【目標】 平成25年1月にわが国において初めてSFTSの感染患者が報告され、それ以降も継続してSFTS患者の発生が確認されている。未解明な点も多いSFTSについて、感染・発症因子の解明、診断法の改良、治療及び予防法等の開発、病理学的解析、ヒト・動物・マダニについての疫学調査を行う。</p> <p>【求められる成果】 SFTSに関する感染・発症因子の解明及び診断・治療・予防法等の開発、SFTSの発生リスク低減策の提言。</p>
(3) 高病原性鳥インフルエンザ感染症の臨床病理学的解析に基づく診断・治療に関する国際連携研究	15,000千円~ 20,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 鳥インフルエンザウイルスのヒト感染例は東南アジアを中心に毎年報告されている。早期診断法をアジア地域に普及させ、有効な治療法を開発することは急務である。迅速簡便なインフルエンザ亜型診断系を鳥インフルエンザ発生国医療機関に導入し、現地の医師らとアジア地域での実用化をはかる。また、患者検体を用いてバイオマーカー解析、病理学的解析を実施し、重症インフルエンザの病態を解明することにより、新たな治療法の基盤を確立する。</p> <p>【求められる成果】 迅速簡便なインフルエンザ亜型診断系の開発・実用化、臨床病理学的解析に基づく新たな治療法の基盤確立、アジア地域を中心とした国際連携体制の構築。</p>
(4) 新興・再興エンテロウイルス感染症の検査・診断・治療・予防法の開発に向けた研究	30,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 世界に先駆けて日本で定期接種に導入されたセービン株由来不活化ポリオワクチンは、現在世界的に実用化が進められており、世界ポリオ根絶最終段階における重要な役割が期待されている。一方、ワクチン株由来ポリオ、重症EV71感染症、EV-D68感染症等エンテロウイルスによる多様な疾患の流行が発生しその対策が世界的な課題となっている。本研究ではポリオ根絶計画最終段階に必要なとされる病原体管理・封じ込めに必要な調査・研究を実施するとともに、重症エンテロウイルス感染症のコントロールのための検査、診断、治療及び予防法の国内外における実用化に資する研究を行う。</p> <p>【求められる成果】 セービン株由来不活化ポリオワクチンに対する品質管理の国際的標準化を含めたポリオウイルスの検査・予防法の世界的な実用化に資する知見の集積、ポリオウイルス株の管理・封じ込めに必要な調査・体制整備・評価等の実施。重症エンテロウイルス感染症の国内外における実態把握、ウイルス型と病態の関連解明、コントロールのための検査・診断・治療・予防法の開発。</p>
(5) 結核菌初回感染・再燃発症を標的とした予防法及び多剤耐性結核菌に有効な治療薬の開発に向けた研究	15,000千円~ 20,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 青年の結核菌初回・再感染及び潜伏感染高齢者の再燃への対応のために、新たな結核予防ワクチンを開発する。また、休眠菌に発現する分子を同定し、それらを標的とした再燃発症予防のための追加免疫法を開発を行う。さらに、多剤耐性結核菌に有効な新規化合物の薬剤化を目指す。</p> <p>【求められる成果】 新たな結核予防ワクチンの開発、再燃発症予防のための追加免疫法の開発及び多剤耐性結核菌に有効な新規抗結核薬の開発。</p>

(6) 新規結核ワクチンの開発に向けた研究	40,000千円程度	最長3年	2課題程度	<p>【目標】 平成26年7月に「改定版ストップ結核ジャパンアクションプラン」が公表され、引き続き日本の早期低蔓延化を図るための対策を推進することが求められ、その目標の一つとして新規結核ワクチンの早期の実用化が挙げられている。多剤耐性結核菌に有効な新規治療用DNAワクチンや粘膜免疫誘導型ワクチン等、新規結核ワクチンの実用化を目指す。</p> <p>【求められる成果】 有効・安全で且つ利便性の高い新規結核ワクチンの実用化に向けた有効性・安全性評価系の確立、非臨床試験における知見集積等の基盤確立。</p>
(7) 真菌感染症の病態解明及び検査・診断・治療法の確立に関する研究	10,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 わが国において重要な侵襲性真菌症であるカンジダ症とアスペルギルス症の検査・診断・治療法の開発を行う。また、診断困難な侵襲性真菌症の全国的な診断支援ネットワーク構築を目指す。</p> <p>【求められる成果】 カンジダ症とアスペルギルス症に対する新たな検査・診断法の開発、侵襲性真菌症の診断支援の実施、新たな抗真菌薬の候補物質のスクリーニング及び有効性・安全性の評価、新規抗真菌薬の開発のための基盤整備。</p>
(8) わが国における熱帯病・寄生虫病の最適な診断・治療体制の構築に関する研究	20,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 海外で熱帯病・寄生虫病に感染し、わが国に帰国した後に発症する輸入熱帯病・寄生虫病の患者の国内における治療実施体制が現在確立していない。このような熱帯病・寄生虫病(マラリア、リーシュマニア症、肝蛭症、アフリカトリパノソーマ症、アメリカトリパノソーマ症、クリプトスポリジウム症、トキソプラズマ症、アカントアメーバ角膜炎等)に対して治療を支援し、そこで得られた情報をもとに国内診療体制、支援体制を整備する。また疫学情報の解析、将来の薬剤耐性事案に備えた研究等を実施する。</p> <p>【求められる成果】 診断・治療体制の整備、熱帯病・寄生虫病の疫学的知見、病原体や薬剤に関する基礎的知見の収集、情報発信。</p>
(9) トキソプラズマの分子疫学調査と新規診断法の開発に向けた研究	10,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 近年、本邦で先天性トキソプラズマ症の事例が確認されてきており、より詳細な疫学的調査が求められている。日本独自の遺伝子型と病原性との関連性を明らかにするため、日本におけるトキソプラズマについて分子疫学調査を行うとともにトキソプラズマ症の疫学情報を集積する。また、遺伝子型等の情報に基づきトキソプラズマ症の新規診断法の開発を行い、病原性の予測を可能にする。</p> <p>【求められる成果】 トキソプラズマの分子疫学情報及び疫学情報の集積、日本独自のトキソプラズマ遺伝子型の同定、病原性と遺伝子型の相関性の解明、トキソプラズマ症の新規診断法の開発。</p>
(10) 新規インフルエンザワクチンの品質管理試験法の開発及び有効性の検証方法の確立のための研究	15,000千円～ 20,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 現行のワクチンとは剤形の異なる皮内投与型ワクチンや弱毒生ワクチン等の種々の新規インフルエンザワクチンが続々と実用化を目指して研究開発されている。その種々の新規ワクチンを一定の品質で供給するために、ワクチンの品質管理を行う試験法の開発、試験法の精度管理及び有効性の検証方法確立のための研究を実施する。</p> <p>【求められる成果】 新規インフルエンザワクチンの品質管理手法の確立、品質管理のための試験法の開発、試験法の精度管理及び有効性の検証方法の確立。</p>
(11) 粘膜免疫誘導型インフルエンザワクチンの開発に向けた研究	30,000千円程度	最長3年	2課題程度	<p>【目標】 粘膜免疫誘導型インフルエンザワクチンは、粘膜上に分泌型IgA抗体を誘導することによる感染防御効果と変異ウイルスに対する交叉反応性の高さが期待されている。粘膜免疫誘導型インフルエンザワクチンの開発、ワクチン作製手法の確立、治験で使用可能な有効性の評価法確立等を行い、粘膜免疫誘導型インフルエンザワクチンの速やかな実用化を目指す。</p> <p>【求められる成果】 粘膜免疫誘導型インフルエンザワクチンの開発、ワクチン作製手法の確立、粘膜免疫誘導型ワクチンの有効性評価法の確立、粘膜免疫誘導型インフルエンザワクチンの実用化に向けた基盤確立。</p>
(12) 麻しん、風しん等のワクチンで予防可能な感染症の排除・制圧に向けた先進的検査診断法開発及び国内ネットワーク構築に資する研究	15,000千円～ 20,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 2015年わが国は特定感染症指針の目標通りに麻しん排除を達成し、WHOによる認定を受けた。一方、風しんの排除目標年は2020年であり、その活動を推進するための診断法の開発が喫緊の課題である。麻しん、風しんなどのワクチンで予防可能な感染症に関して、先進的検査診断法の開発を行うとともに、精度管理された検査体制の国内ネットワーク構築に資する研究を行う。</p> <p>【求められる成果】 麻しん、風しん等のワクチンで予防可能な感染症に関する先進的検査診断法の開発。精度管理された検査体制の国内ネットワーク構築。</p>

(13) ムンプスワクチンの有効性・安全性の評価法確立及び新規ムンプスワクチン開発に向けた研究	20,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 ムンプスワクチンにおいては無菌性髄膜炎等の重要な副反応の発生リスクが知られており、現行のムンプスワクチンと同等以上の有効性を保ちつつ、副反応の発生がより低い安全なムンプスワクチンの開発が求められている。ムンプスワクチンについては、その有効性・安全性を適切に評価可能な動物モデルが存在せず、ワクチン開発及びワクチンに係る検討の制約となっている。このことから、適切な動物モデルを開発するとともに、それを用いた基礎的知見を集積する。また、より有効性・安全性の高い新規ムンプスワクチンの開発と実用化を目指す。</p> <p>【求められる成果】 ムンプスワクチンの有効性・安全性を評価する動物モデルの開発とそれを用いた基礎的知見の集積、有効性・安全性の高い新規ムンプスワクチンの開発に向けた基盤確立。</p>
(14) 小児において疾病負荷が高い疾患を対象とした新規ワクチンの開発に向けた研究	20,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 小児における感染症の予防については、麻しんワクチン導入による麻しん排除、水痘ワクチンの定期接種化による水痘患者数の減少が報告されている。しかしながら、未だ有用なワクチンが開発されていない疾患も多い。小児において疾病負荷の高い感染症を新たなターゲットとしたワクチンの開発を目指す。</p> <p>【求められる成果】 小児において疾病負荷が高い疾患を対象とした新たなワクチン開発のための基盤確立。</p>
(15) ワクチンの実地使用下における有効性・安全性及びその投与方法に関する基礎的・臨床的研究	10,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 予防接種の実地使用下における有効性・安全性を検討し、既存ワクチンの改良や予防接種施策の推進に必要な科学的な知見を集積する。ワクチンの有効性・安全性及びその投与方法に関する基礎的・臨床的研究を行い、これからの新たなワクチン開発等に資する知見を集積する。</p> <p>【求められる成果】 予防接種の実地使用下における有効性・安全性に係る知見の集積、新たなワクチン開発等の基盤情報整備。</p>
(16) 抗毒素の品質管理及び抗毒素を使用した治療法に関する研究	5,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 ヤマカガシ及びセアカゴケグモの咬傷による重症患者の発生はまれではあるが、その救命には、それぞれの抗毒素が不可欠な治療薬となる。しかし、現在いずれも国内外で製造されていない状況にあり、国民の健康に必要な治療薬の国内開発を行う必要がある。両抗毒素を用いた臨床研究を実施し、安定的な供給及び国内診療体制整備を行うことで国民の健康に直接貢献するとともに、得られた実証的データを分析し、その安全性と有効性について明らかにする。</p> <p>【求められる成果】 ヤマカガシ抗毒素とセアカゴケグモ抗毒素に関する臨床研究を通じた抗毒素の評価とその安定供給のための基盤整備。</p>
(17) 動物由来感染症の制御に資する検査・診断・予防法及びサーベイランスの強化と事前対応に関する研究	20,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 動物由来の重要な新興・再興感染症(ハンタウイルス感染症、野兔病等)について野生動物等の保有する病原微生物の疫学的情報を集積する。また、動物由来感染症の検査・診断・予防法の開発を行う。宿主域が拡大している動物感染症や霊長類の感染症等が、ヒトにおける新興・再興感染症の発生に繋がるリスクを評価するための研究を行う。</p> <p>【求められる成果】 動物が保有する病原微生物情報の集積、動物由来感染症の検査・診断・予防法の開発、動物由来感染症のサーベイランス実施及びヒトにおけるリスク評価</p>
(18) 培養細胞感染系が確立されていない病原体の新たな感染複製系等の開発とそれを用いた診断・治療・予防法の開発に向けた研究	20,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 現在まで培養細胞での感染増殖系が確立されていないため、ウイルス学的研究に大きな制約がありその感染症対策が十分でないウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ヒトポリオマウイルス、ヒトパピローマウイルス等)について、培養細胞感染系の確立を目指す。また、ウイルス様中空粒子(VLP)やレプリコン複製系等による新規感染複製系の開発及びそれを用いた診断・治療・予防法開発のための基盤研究等を行う。</p> <p>【求められる成果】 培養細胞感染系の確立、新たな感染複製系の開発、それを用いたウイルス感染症の診断・治療・予防法開発のための基盤確立。</p>

(19) 迅速・網羅的病原体ゲノム解析法の開発及び感染症危機管理体制の構築に資する研究	100,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 次世代シーケンス(NGS)検査診断法について、国外も含めたグローバルな総合支援体制のために、NGS検査法に係る手順書の整備や、ゲノム分子疫学ツールの開発と当該病原体の遺伝型を図示化するWebツールを構築する。デングウイルス、下痢症病原体、薬剤耐性細菌、インフルエンザウイルス等、検査現場で要望の高い病原体ゲノム情報から必須情報(遺伝型、汚染源追跡、病原性、薬剤耐性等)を迅速且つ平易に抽出する総合解析システムを開発することにより、感染症危機管理体制の構築に資する網羅的な診断系を確立する。</p> <p>【求められる成果】 NGS検査診断法を含めた総合的な検査支援ネットワークの樹立、病原体や疫学等に関する情報を効率的に統合可能なシステムの開発、ゲノム情報から必要な情報を抽出する総合的な解析システムの開発、網羅的な診断系の確立。</p>
(20) 多剤耐性菌に有効な新規抗菌薬開発に向けた研究	10,000千円程度	最長3年	2課題程度	<p>【目標】 薬剤耐性菌はWHOやG7先進国首脳会議等においても重要な課題とされてきており、近年では複数の薬剤への抵抗性を示す多剤耐性菌が大きな問題となっている。これら多剤耐性を有する腸内細菌や肺炎桿菌、エンテロバクター、緑膿菌、黄色ブドウ球菌等、既存の抗菌薬による治療が困難な病原体に有効な新規抗菌薬を開発する。現在までに見出されている新規抗菌薬の候補化合物について、臨床分離された多剤耐性菌に対する抗菌活性を調べ、さらに安全性、有効性について非臨床試験を実施し、新規抗菌薬の実用化を目指す。</p> <p>【求められる成果】 現在問題となっている治療困難な多剤耐性菌に対して有効な新規抗菌薬の開発。</p>
(21) 新興・再興感染症対策の強化に必要な基盤技術の創出、診断・治療・予防法の開発に向けた研究	10,000千円程度	最長3年	4課題程度	<p>【目標】 現時点で実施する必要性の高い新興・再興感染症に関連する研究を実施し、総合的な感染症対策の強化に資する基盤技術の創出又は革新的な感染症の診断・治療・予防等に関する方法の開発を行う。</p> <p>【求められる成果】 総合的な感染症対策の強化に資する基盤技術の創出、あるいは新規診断薬・治療薬・ワクチン等の開発。</p>
(2) 肝炎等克服実用化研究事業				
1. 肝炎等克服緊急対策研究事業				
(1) C型肝炎の新たな治療に対する宿主因子又はウイルス因子に関する研究	40,000千円程度	最長3年	2課題程度	<p>【目標】 宿主のゲノムワイド関連解析、ウイルスゲノム解析、自然免疫応答の解明、次世代シーケンス技術による解析等を通じて、C型肝炎の新たな治療法に係る宿主因子、ウイルス因子を同定、解析し、ウイルス排除後から発がんに至るまでの病態解明に関する研究を実施する。</p> <p>【求められる成果】 新たな治療に係る肝がんハイリスク群の同定・発がん予測、線維化改善等に関する宿主因子・ウイルス因子の解明等とマーカーとしての実用化、学術論文発表、特許出願/取得等</p>
(2) 肝硬変患者の肝機能改善につながる医療技術の創出を目指した研究	30,000千円程度	最長3年	2課題程度	<p>【目標】 肝硬変患者に対して、既存の薬剤の応用や、新規治療技術の開発、抗線維化に着目した肝再生技術、先進医療として実施される医療技術の開発等を通じて、肝硬変に進展した患者の肝機能改善につながる医療技術の創出を目指す。</p> <p>【求められる成果】 実験モデル系の作成、肝硬変患者の肝機能改善につながる新たな知見、非臨床的POCの確認、前臨床安全性評価、医師主導治験又は臨床試験開始(治験実施計画書の提出)、治験完了(医師主導治験総括報告書等)、企業への導出、学術論文発表、特許出願/取得等</p>
(3) C型肝炎における慢性肝炎から発がんに至るまでの病態解明とその制御に関する研究	35,000千円程度	最長3年	2課題程度	<p>【目標】 C型肝炎ウイルス感染による炎症、脂肪化、線維化、発がんに至るまでの発症機構をウイルス学的、免疫学的観点から解析し、肝発がんの阻止を目指した治療法の開発を目指す。</p> <p>【求められる成果】 実験モデル系の作成、HCV感染機構の新たな知見、肝炎等発症に関する宿主因子の新たな知見、非臨床的POCの確認、前臨床安全性評価、学術論文発表、特許出願/取得等</p>
(4) 科学的根拠に基づくウイルス性肝炎治療に関する研究	30,000千円程度	最長3年	1課題程度	<p>【目標】 多くのDAA製剤が上市している状況下、科学的根拠に基づくウイルス性肝炎治療の標準化を目指して、それに寄与する多施設共同による実態調査と解析を行い、最新のコンセンサス、診療指針等に寄与する知見を創出する。</p> <p>【求められる成果】 ウイルス性肝炎治療の標準化に提言しうる科学的根拠に基づいた資料(研究班が作成した原著論文、研究班で収集した論文集等)、臨床研究完了(臨床研究総括報告書)、特許出願/取得等</p>

(5) 自然免疫応答の視点から見たC型肝炎治療の新たな展開に関する研究	35,000千円程度	最長3年	1課題程度	【目標】 自然免疫応答の視点から多機能幹細胞等を利用して、C型肝炎治療の新たな展開に繋がる新規治療法の開発に資する基礎研究・臨床研究を進め、その安全性や有効性等を評価する。研究期間終了時に治験又は先進医療制度を活用した臨床試験等への移行を目指す。 【求められる成果】 細胞株の規格決定、非臨床的POCの確認、前臨床安全性評価、治験開始(治験実施計画書の提出)、企業への導出、学術論文発表、特許出願/取得等
(6) C型肝炎ウイルス排除を目指したワクチン開発に関する研究	20,000千円程度	最長3年	1課題程度	【目標】 肝炎ウイルス特異的免疫賦活化によるC型肝炎ウイルス排除を可能とする治療用ワクチンを開発する。 【求められる成果】 ワクチン株の確立、ワクチン抗原の同定/至適化、非臨床的POCの確認、前臨床安全性評価、学術論文発表、特許出願/取得等
(7) 肝炎ウイルスの感染複製増殖と病原性発現を阻止するための基盤的研究	50,000千円程度	最長3年	1課題程度	【目標】 肝炎ウイルス培養系を用いた感染複製増殖過程の解明、病原性発現機構や薬剤感受性の解析、新規感染動物モデルの開発等を通じて、革新的な医療技術の創出に資する基盤的研究を実施する。 【求められる成果】 動物実験系の確立、in vitro 感染モデル系の確立、肝炎発症機構の新たな知見、非臨床的POCの確認、前臨床安全性評価、学術論文発表、特許出願/取得
(8) ウイルス性肝疾患領域における新たな知見の創出や新規技術の開発に関する研究	30,000千円程度 10,000千円程度	最長3年	2課題程度 4課題程度	【目標】 ウイルス性肝疾患に関連する基礎・臨床研究分野について、患者や社会のニーズ及び医療上のニーズも十分に勘案し、独創性や新規性、発展性に富む研究開発を実施し、肝炎に関する診断法、治療法、予防法の開発に関する新たな知見、革新的な医薬品、医療機器及び医療技術の創出をめざす。 【求められる成果】 肝炎発症機構の新たな知見、肝炎等発症に関する新たな宿主因子の同定、ウイルス性肝炎治療また診断技術の改善を提言しうる新たなエビデンス、学術論文発表、特許出願/取得等
(3) エイズ対策実用化研究事業				
(1) 新規治療薬開発に関する研究	70,000千円程度	最長3年	1課題程度	【目標】 画期的な新規HIV治療薬の開発に資する候補物質の安全性・有効性を評価し、平成30年末を目処に臨床試験を開始する。 【求められる成果】 試験物の規格決定、試験物の製造体制整備、非臨床POC取得、前臨床安全性評価、治験開始(治験実施計画書)、学術論文の公表等。
(2) 医薬品開発のシーズ探索に資する研究	50,000千円程度	最長3年	2課題程度	【目標】 画期的な治療薬/ワクチン開発に繋がる候補物質を見出す。従来の治療アプローチとは異なる新規の治療法開発を行う研究を優先的に採択する。 【求められる成果】 スクリーニング系の確立、候補物質の同定、学術論文の公表、特許出願/取得、試験物の規格決定、試験物の製造体制整備、非臨床POC取得、前臨床安全性評価、治験開始(治験実施計画書)、治験完了(治験総括報告書)等。
(3) 新規治療戦略開発を踏まえたHIV感染の病態解明に関する研究	10,000～50,000千円程度	最長3年	2課題程度	【目標】 HIV感染の病態機構を解明し、実用化に向けたマイルストーンを明示した上で新規治療戦略開発に結びつく研究開発を行う。特に薬剤耐性ウイルスに関する研究であって、その発生動向等の疫学的調査を実施する研究を優先的に採択する。 【求められる成果】 新規治療戦略開発に結びつく基礎的技術の確立や病態に関する知見の集積、分子疫学的調査等による実態把握、学術論文の公表、特許出願/取得、試験物の規格決定、試験物の製造体制整備、非臨床POC取得、前臨床安全性評価、治験開始(治験実施計画書)等。
(4) HIV関連病態の解明と治療法開発に関する研究	10,000千円程度	最長3年	2課題程度	【目標】 HIV感染症に合併しうる病態について、疫学的検討を行うとともに新たな予防法及び治療法を開発し、その効果、副作用、費用、医学管理的手法等の側面から解析を行う。特に悪性腫瘍に関する研究を優先的に採択する。 【求められる成果】 学術論文の公表、特許出願/取得、ガイドライン/マニュアルの作成、試験物の規格決定、試験物の製造体制整備、非臨床POC取得、前臨床安全性評価、治験開始(治験実施計画書)等。